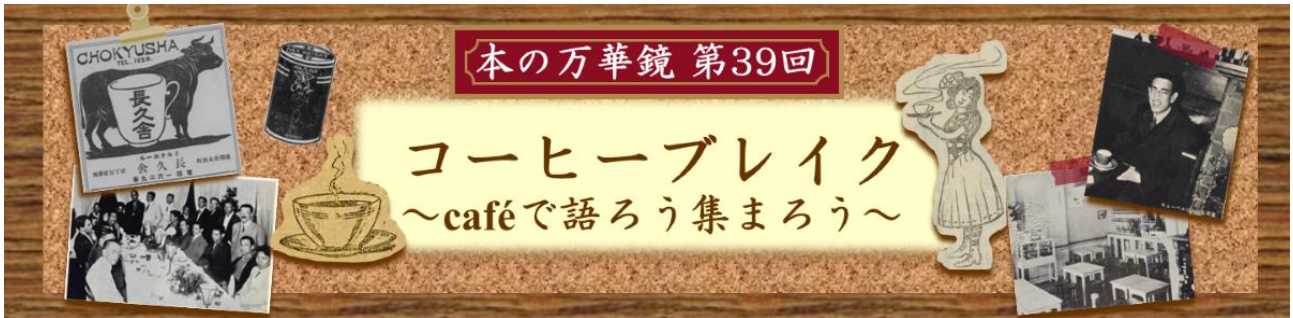


## ミニ電子展示「コーヒーブレイク～caféで語ろう集まろう～」公開



URL: <https://www.ndl.go.jp/kaleido/39>

インターネットでどなたでもご覧になれます



国立国会図書館は令和8年5月12日に、ミニ電子展示「本の万華鏡」第39回「コーヒーブレイク～caféで語ろう集まろう～」を公開しました。

私たちに身近な存在である喫茶店。本展示では、喫茶店の移り変わりを、海外から新しい飲み物と喫茶店文化が持ち込まれた明治中期、カフェと呼ばれる喫茶店が登場した明治末期から大正前期、カフェの変化とともに健全さを売りにした純喫茶が広まった大正後期から昭和初期に分け、文学作品や当時の広告も交えて紹介します。

第1章 喫茶店のはじまり ～外国から来た飲み物と喫茶店文化～

第2章 「カフェ」と呼ばれた喫茶店 ～文化を育む場所～

第3章 喫茶店の広まり ～純喫茶の登場～



本の万華鏡

URL: <https://www.ndl.go.jp/kaleido>

「忍者」「推し活」「探偵小説」「鳥」「結婚式」など、39のテーマで、国立国会図書館の蔵書を紹介しています。

■ 報道機関の方のお問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 総務課 広報係 03-3506-5103 (直通)

● 各章の内容と資料の一部をご紹介します。 \*【 】は当館請求記号

## 第1章 喫茶店のはじまり

### ～外国から来た飲み物と喫茶店文化～

明治中期には、コーヒーをはじめ、海外から様々な飲み物と文化が伝来し、のちのカフェーや純喫茶へとつながります。その例として、最初の喫茶店と言われることもある可否茶館や、新しい飲み物を楽しむ場であったソーダファウンテン、台湾喫茶店、ミルクホールを紹介します。

画像：勸業協会編『神奈川県案内誌』、勸業協会、1913  
【350-117】



## 第2章 「カフェー」と呼ばれた喫茶店

### ～文化を育む場所～

留学帰りの人々からヨーロッパの喫茶店の情報がもたらされると、日本でもこうした場が求められるようになりました。明治後期以降の「カフェー」と呼ばれた喫茶店、多くの文学者や学生に愛された喫茶店を、芸術や文学との関わりに着目しながら紹介します。

画像：日本近代史研究会編『総合日本史：写真図説 第7巻 (近代篇 中)』、国際文化情報社、1956【210.1-N685s】



## 第3章 喫茶店の広まり ～純喫茶の登場～

喫茶店は、関東大震災を挟んでますます増える一方、一部の店では風紀の乱れなども見られるようになります。そういった店に対抗して「健全さ」を売りにして登場した純喫茶を中心に、大正後期～昭和初期の喫茶店の移り変わりをみていきます。

画像：『スタア』3(20)(58)、スタア社、1935-10。【Z31-304】



■ 報道機関の方のお問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 総務課 広報係 03-3506-5103 (直通)